

経営比較分析表（平成29年度決算）

栃木県 宇都宮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	69.40	97.48	2,808	

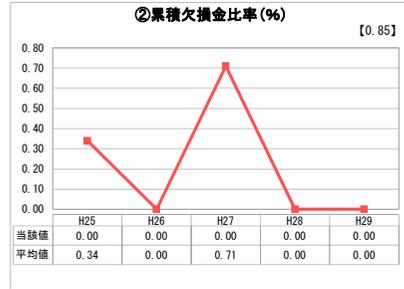
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
522,938	416.85	1,254.50
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
508,395	355.18	1,431.37

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

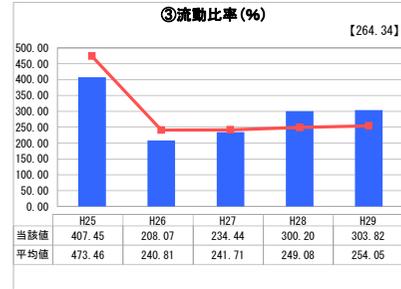
1. 経営の健全性・効率性



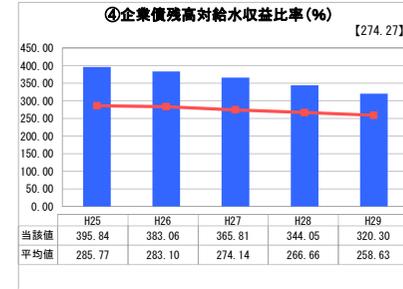
「経常損益」



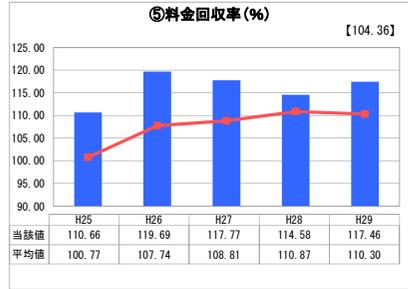
「累積欠損」



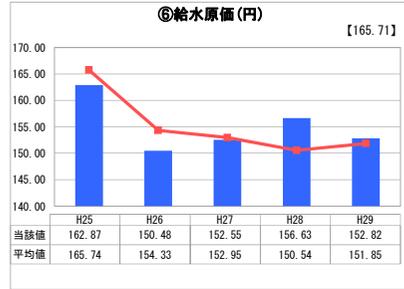
「支払能力」



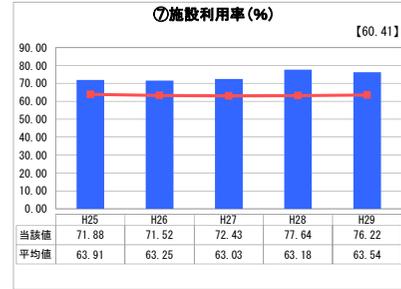
「債務残高」



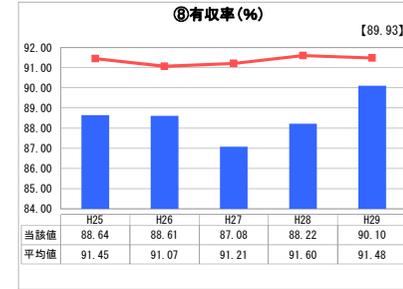
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

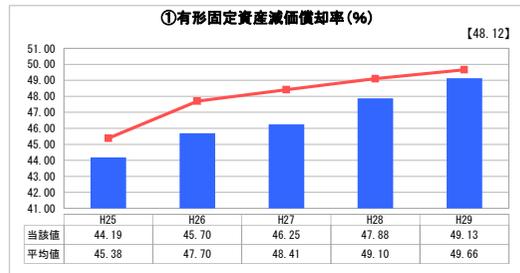


「施設の効率性」

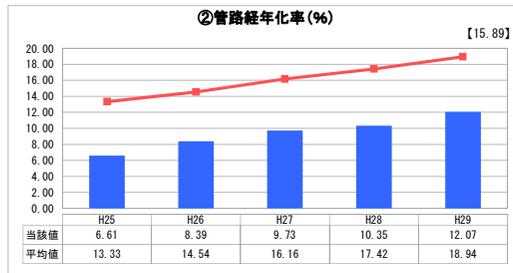


「供給した配水量の効率性」

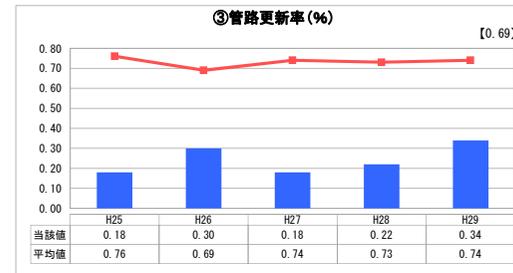
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」及び「⑤料金回収率」は、経常費用の減少に伴い前年度比でやや増加し、いずれも100%を超えたとともに類似団体平均値を上回っており、これは経常収益が伸び悩む中で経費抑制を行った結果と言える。

また「⑧有収率」は類似団体の平均値を下回ってはいるが、漏水対策のための各種取組の成果により前年度から改善した。

一方、「④企業債残高対給水収益比率」は、企業債残高削減の取組により、年々、改善傾向にあるが、依然として類似団体の平均を上回っている。

以上のことから、本市の水道事業は、課題となっている指標の改善が見られることに加え、給水に係る費用が給水収益で賄えており、将来の施設の老朽化や耐震化に向けた資金となる利益を生んでいることから、健全な経営状態であると評価できる。一方で、漏水量を更に縮減するための取組を、今後もより一層推進することが必要と言える。

2. 老朽化の状況について

「②管路経年率」は類似団体平均値を下回っており、相対的に法定耐用年数を超過した管路の割合は低いと言えるが、年々上昇を続けていることから、法定耐用年数を超過した管路が増加している。

「③管路更新率」は計画的な更新を行っていることから、やや増加したが、類似団体平均値を下回った。

今後も、アセットマネジメントにより、老朽配水管の更新計画を策定し、計画的に老朽化対策を実施していく。

全体総括

給水収益を適切に確保する一方、効率的な維持管理や企業債残高の縮減などにより給水費用の低減を図るとともに、漏水対策への実効性ある取組の推進や水需要に合わせた将来的な施設の再構築などにより経営の健全化・効率化を図る。また法定耐用年数を超過した管路の更新についても、将来的に更新需要の増大が見込まれることから、財政収支との整合を図りながら計画的に取り組む必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。